

白虎隊について

6107SK

白虎隊は、戊辰戦争の時に戦場へ行き、飯森山で自刃をした16才から17才の少年たちです。会津の子供たちは10才になってから日新館に行きました。

《日新館での講習》什のおきてを学びました。



日新館で6.7年勉強をし、試験によって上の講釈所に入ることになっていました。しかし、白虎隊の人々は、講釈所に入学する年齢でしたが、戊辰戦争により入れませんでした。

白虎隊のほかにも朱雀隊、青龍隊、玄武隊がありました。このうちもっとも強い朱雀隊を主力にしてくりだし、それにつづく青龍隊に国境をまもらせ、玄武隊と白虎隊、幼少隊は備えにとっておく方針でした。

体験したことのない戦闘と敗走、睡眠不足と少年達は疲れきっていたそのとき、高台から見た鶴ヶ城は黒い煙につつまれ、天守閣の白壁には赤い炎が燃えさかっているように見えました。

少年たちは落城の運命かと思うと全身の力が一度に抜けていくような悲しさが胸にこみ上げてきて、「最後まで会津の武士らしく、いさぎよく、みんなここで切腹しよう」といい、お城に一礼してから自刃しました。

白虎隊でゆういつ生き残った飯沼貞吉の墓



まとめ

白虎隊のことを実際にきた場所などを見て。とても勉強になったし、何回調べるよりも一回見た方がより理解できると思いました。

白虎隊は少年たちだけで結成された部隊ということや、戊辰戦争で活やくしたことを知ることができました。